

仙台大学 広報室

Monthly Report

新入生638名が第一歩を踏み出す—仙台大学入学式



新入生を代表して宣誓文を読み上げる齊藤源生さん＝仙台大学第五体育館

4月4日（土）、本学第五体育館で「平成27年度 第49回体育学部第18回大学院入学式」が執り行なわれました。新入生638人（体育学科329人・健康福祉学科107人・運動栄養学科88人・スポーツ情報マスメディア学科49人・現代武道学科49人・編入学生4人・大学院スポーツ科学研究科12人）が、大学生活の第一歩を踏み出しました。

阿部芳吉学長は、新入生に対し「志を持ち続け、仲間と支え合い、夢や目標を達成するために努力の炎を燃やしてほしい」と激励。続いて、朴澤泰治理事長が「小学校から高校までの12年間の集大成が大学である。この立ち位置を意識しつつ、主体的に学び、有意義な大学生を送ってほしい」と期待を込めて挨拶されました。入学者を代表し

さいとうげんき

て、齊藤源生さん（体育学科1年—栃木・黒磯高校出身）が「私たちは、体育・スポーツ、健康に関わる諸科学を探究し、これからの時代の担い手となるよう、身体を鍛え、教養を深め、心を磨き、豊かな学生生活をおくれるよう努力して参ります」と力強く宣誓文を読み上げた後、来賓の滝口茂柴田町長からご祝辞を頂きました。在学生を代表して、2014仁川アジアパラ陸上女子砲丸投げで世界新記録を樹立した

かとう ゆきこ

加藤由希子さん（健康福祉学科4年—宮城・気仙沼女子高校出身）も「仙台大学はスポーツを科学的に研究する大学です。日本有数の施設

< 目 次 >

新入生638名が第一歩を踏み出す—仙台大学入学式	1
平成27年度 新任者紹介 挨拶	2
大河原小学校で仙台大学連携校指定式を開催	5
現役学生初「日本体育協会公認アスレティックトレーナー」検定試験に合格	6
フィンランド・台湾からの留学生が「茶道」を通して日本文化を学ぶ	7
学生の競技結果等	10

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
広報室までご一報ください。

広報室

TEL 0224-55-1802

FAX 0224-57-2769

Email: kouhou@sendai-u.ac.jp

スポーツを英語で語るキャンパス創り

"A campus for Sports Education through English"

—LET'S TALK SPORTS IN ENGLISH!—

2017年創立50周年

50 years Anniversary of Establishment in 2017

SENDAI
UNIVERSITY

Since 1967

SPORTS FOR ALL ～スポーツは健康な人のためだけでなく、全てのの人に～

と情熱的な先生方、さらに心優しい柴田町の方々がいらっしゃいます。私も2020年の東京パラリンピックに向けて、健常者の大会に出場しながら、さらに努力して参ります。新入生の皆さん、一緒に頑張っていきましょう」と歓迎の言葉を述べました。

式終了後は、式場の外で先輩たちがサークルや研究会などの勧誘を行っており、新入生を歓迎していました。新入生一人一人の大学生活が豊かで充実したものになることを教職員一同、心よりご祈念申し上げます。



平成27年度 新任者紹介 挨拶(平成27年4月1日付)

－教員17名・事務職員2名・嘱託研究員1名・新助手7名・臨時職員10名の計37名が着任－

齋藤 幸男 教授 (国語・防災学) 	震災の教訓から、防災を切り口にした命と向き合う教育を実践してきました。仙台大学の学生諸君のような実践的・行動的な人材が、これからの日本には必要です。宜しくお願いします。	井上 雅勝 教授 (運動学・保体教育法) 	学生・教職員の皆さんとともに数多くの夢実現を目指し、爽やかに汗を流したいと思います。よろしくご指導ご支援をお願いいたします。
郡山 孝幸 教授 (保体教育法) 	これまでの教職生活、主に小学生への指導に携わってきました。仙台大学の一員となり大変光栄です。新たな気持ちで学生とアクティブな毎日を過ごしたいと思います。	針生 弘 教授 (教育学) 	今年度から体育学科でお世話になっております針生です。チャレンジの気持ちを持ちながら、学生に負けないう頑張っていきたいと思います。どうぞ宜しくお願いします。
牛 志奎 教授 (教育制度・中国語) 	2005年兵庫教育大学連合大学院博士号取得、2006年中国に帰国して、北京師範大学、内モンゴル民族大学、アメリカのUniversity of Daytonの客員研究員を経て、今年度から本学の中国語と教育の制度の担当になりました。これから本学留学生の研究、生活および大学の国際化に尽力して参りたいと思いますので、宜しくお願いします。	高橋 亮 准教授 (教育学・社会福祉) 	子供から高齢者までが障がいがあってもなくても、元気に生きがいを持って生き抜くためのジェロントロジー教育(共)育を学んで来ました。宜しくお願いします。
金 賢植 講師 (幼児体育) 	大学は、教えてもらう場ではなく、自ら学ぶ場です。スポーツマンらしい振る舞いを大切にしながら、本気で遊び、本気で学んでください。	堀江 竜弥 講師 (看護学) 	健康福祉学科の講師に着任した堀江竜弥と申します。高齢者看護学領域の教育・研究に携わってきた経験を、本学に還元できるよう努める所存です。どうぞ宜しくお願いします。
ジェリー・パランギ 講師 (英語・ラグビー) 	“Nothing ventured, nothing gained.” – Benjamin Franklin Dear teachers and staff. I am honored to work alongside you.一緒に頑張りましょう。	三谷 高史 講師 (社会学) 	近畿、四国、関東と暮らし、この東北・宮城にやってきました。初めての土地で少々不安もありますが、仙台大学に貢献できるよう力を尽くしてまいります。
黒澤 尚 助教 (サッカー) 	昨年までの8年間、新助手として勤務させていただきました。新たな気持ちで、学生と共に夢を追いかけて、感動を味わい、青春します。よろしくお願い致します。	白幡 恭子 助教 (AT) 	仙台生まれ仙台育ち、少しアメリカかぶれの仙台人です。グローバルな人材育成と、学生トレーナーの実力向上、そしてATの学内普及に向けて尽力していきたいと思っています。

福田 伸雄 助教 (看護学) 	10年前に本大学の健康福祉学科を卒業した福田伸雄です。卒業後、看護師免許を取得し、救急看護の現場で勤務しておりました。精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。	佐藤 周平 助教 (テニス) 	スポーツへの情熱とチャレンジ精神あふれる本学で、学生と共に歩み、自分も楽しみながら、誠心誠意努力していこうと思います。何卒よろしくお願い致します。
坪井 俊樹 助教 (スポーツ情報戦略) 	情報戦略を担当します。専門競技は野球ですがそれぞれの競技においてどのような戦略活動がなされているのかといったことを皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。	溝口絵里加 助教 (体操) 	体育学科でお世話になります溝口絵里加です。一日も早く仙台大学の一員として、活躍できるよう精一杯努力していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。
平良 拓也 助教 (栄養学) 	私は仙台大学・大学院を修了し、山形県の栄養士/管理栄養士養成校に勤務しておりました。微力ではありますが、母校に貢献できるよう尽力して参ります。宜しくお願い致します。	芳賀 茂 さん (教職支援課長) 	教職支援課でお世話になります。船岡に単身で赴任しました。意欲をもって職務に励んでまいりますので、よろしくお願いいたします。
野村 早紀 さん (庶務課) 	今年度より事務職員として学術会事務局を担当することになりました、野村早紀と申します。仙台大学の発展に少しでも貢献できるよう、日々努力を続けて参りたいと思います。ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導のほどよろしくお願い致します。	吉田 寿美恵さん (嘱託研究員) 	今年度から嘱託研究員として働かせていただくことになりました吉田寿美恵です。主に実験や実習の補助をさせていただきます。早く新しい環境になれるよう努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
日下部 悟 新助手 (ボート) 	今年度からGTとして働かせていただく日下部悟です。主に漕艇部の指導を担当します。よろしくお願いいたします！	吉田 洋志 新助手 (ハンドボール) 	吉田洋志と申します。仙台大学を卒業し、仙台大学大学院を修了しました。種目はハンドボールです。仙台大学に貢献が出来るよう、日々精進していきたいと思います。
中村祐太郎新助手 (バレーボール) 	今年度新助手として働かせて頂くことになりました。男子バレーボール部の強化はもちろん、仙台大学の一員として宮城県内のバレーボール競技の発展にも貢献できるよう力を尽くして参ります。よろしくお願いいたします。	村上 昂 新助手 (運動栄養) 	今年度から運動栄養学科の新助手としてお世話になります。村上昂です。物事を素直に受け止め、謙虚さ忘れずに社会人として仙台大学で勤務したいと思います。ご指導よろしくお願い致します。
只野 瑞恵 新助手 (運動栄養) 	今年度から運動栄養学科新助手として働かせていただきます只野瑞恵です。一日でも早く業務を覚えて積極的に動いていけるよう努力して参りますのでご指導の程、よろしくお願い致します。	溝上 拓志 新助手 (スポーツ情報) 	本年度より、新助手としてお世話になります溝上拓志です。スポーツ情報の分野から、大学や地域に少しでも貢献できるよう精進いたします。よろしくお願いいたします。
進藤 亮祐 新助手 (BLS) 	本年度より、新助手として働かせていただくことになりました進藤です。コーチとして創意工夫を忘れずにBLS部の競技力向上、仙台大学に貢献できるように努めていきますのでよろしくお願いいたします。	新開紫織臨時職員 (学生支援センター) 	今年度から臨時職員として働かせていただきます、新開紫織です。これまでの経験を生かし、何事にも進んで取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

松永吾賢臨時職員 (学生支援センター) 	この度、学生支援室で働くことになりました松永吾賢（あがし）です。学生の生活がより良いものになるようサポートし、自分が感じ、経験したボランティアの素晴らしさを伝えていけたらと思います。よろしくお願い致します。	永井大貴臨時職員 (学生支援センター) 	今年度から臨時職員として学生支援室で働かせていただく永井大貴です。将来の目標の実現のために感謝の気持ちを忘れず職務に励んでいきます。ご指導よろしくお願いします。
四釜千尋臨時職員 (学生支援センター) 	今年度より学生支援室で働かせていただく四釜千尋と申します。一人でも多くの学生にボランティアの重要性、そして学生生活の楽しさを感じてもらえるようなサポートがしたいと思います。ご指導の程よろしくお願い致します。	石橋雪乃臨時職員 (学生支援センター) 	今年度から学生支援室でお世話になります、石橋雪乃です。主に留学生の語学支援を担当します。不慣れではありますが、一生懸命頑張りますので、ご指導の程よろしくお願い致します。
村松敦大臨時職員 (学生支援センター) 	本年度から臨時職員として学生支援センターに配属になりました村松敦大です。多くのことを勉強、吸収し成長をしていきたいと思ひます。よろしくお願い致します。	遠藤皓樹臨時職員 (実践機構) 	今年度から臨時職員として働かせていただきます、遠藤皓樹です。人間として、アスレティックトレーナーとして成長できるよう、頑張りたいと思ひます。よろしくお願い致します。
一瀬瑞樹臨時職員 (実践機構) 	本年度から機構でお世話になる一瀬です。学生生活で学んだことを活かして、少しでも活躍できればと思ひます。よろしくお願い致します。	石川美香臨時職員 (実践機構) 	今年度よりスポーツ健康科学研究実践機構でお世話になります、石川美香です。1つでも多くのことを学び成長していきたいと思ひます。ご指導よろしくお願い致します。
浅野勝成臨時職員 (トレーニングセンター) 	昨年の11月からトレーニングセンターで勤務しています。米国での経験を生かし、仙台大学に貢献できるよう精進していきますので、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。 ＜平成26年11月1日付採用＞		

大河原小学校で仙台大学連携校指定式を開催



仙台大学連携校の看板を掲げる丸山校長(左)と阿部学長＝大河原小学校

3月30日(月)、大河原町立大河原小学校で「仙台大学連携校指定式」が執り行われました。同指定式には、本学からは阿部芳吉学長・青沼一民教授(教職支援センター長)・久能和夫教授が、大河原町からは大河原町教育委員会の齋一志教育長・大河原小学校の丸山千佳子校長らが出席されました。阿部学長から丸山校長へ「仙台大学連携校」の指定証が交付され、大河原小学校の正面玄関入口に看板が掲示されました。

本学と大河原小学校との連携により、本学から講師を同小に派遣し、同小教職員の教科等の指導力向上や児童へのきめ細やかな指導を行うと共に、教師を目指す本学の学生を支援員として派遣し、実践経験の場とすること。また、本学と同小が専門的研究を同小で実践することにより、児童の体力と学力向上を図ることが狙いです。

阿部学長は「大河原小学校との絆を深めていきたい。知・徳・体の三拍子揃った子どもたちを育成するために、大きな成果を生み出したい。本学と大河原小学校が一体となり、学習面・運動面で懸命に努力することが、子どもたちの徳育につながると考えている。本学の学生も大河原小学校の先生方にご指導して頂きながら、成長してほしいと願っている」と話し、齋教育長は「仙台大学の知的財産を積極的に活用させて頂きたい。仙台大学と大河原小学校が垣根を無くし、教育研究活動に取り組むことが、子どもたちの学力・体育・徳育を総合的に育てることになると期待している。仙台大学の支援を受けながら、成果を得られるようにしていきたい」と述べられました。

なお、本学における「連携校の指定」は、大河原小学校が初めての取組みになります。

仙台大学方式「元気体操の楽しみ方」を実演



気軽に楽しくできる「足踏み」を実演する齋藤(左)・柳澤の両助手＝仙台国際センター

4月5日(日)、仙台国際センター(仙台市青葉区)で「第7回元気!健康!フェアinとうほく」(主催:東北大学・河北新報社・東北放送/共催:仙台大学他)が開催されました。同フェアは、東北大学を中心とした講師陣が、最新・最先端の健康情報について幅広い視点でわかりやすく紹介する講演やセミナー・その他の体操プログラムもある健康フェアです。

本学からは、柳澤麻里子・齋藤まり・松浦里紗の各助手が「元気体操の楽しみ方」について、家庭でも気軽に楽しくできる「足踏み運動」・「つま先立ち運動」の実演を交えながら紹介しました。この運動は、安定した歩行・転ばない歩き方を維持できるようにすることがねらいです。仙台大学方式の「元気体操の楽しみ方」(会場:同センター第三会場「桜」)には、約30名の皆さまがご参加くださいました。

本学スポーツ健康科学研究実践機構の柳澤助手は「デモンストレーションを交えながら丁寧に解説し、運動を行ないました。その運動の意味が解ると、参加者の皆さまはとても納得されている様子でした。熱心に聞き入り、細かくメモを取られている方もいらっしゃいました。短い時間ではありましたが、楽しんでいただけた様子が何え安心しました」と話しました。

なお、4月4日(土)は、同フェアで本学体育学部健康福祉学科の笠原岳人准教授が「筋肉に引退なし!百歳まで歩くための筋肉づくり運動」について講演を行ないました。

現役学生初「日本体育協会公認アスレティックトレーナー」検定試験に合格



ATの合格証を手にする遠藤さん
＝仙台大学ATルーム

4月8日（水）、本学アスレティックトレーナー部
えんどうこうき
に所属していた遠藤皓樹さん（平成27年3月体育学科
卒一山形・米沢中央高校出身）が、本学の**現役学生
で初**の「日本体育協会公認アスレティックトレー
ナー」検定試験に合格しました。

「日本体育協会公認アスレティックトレーナー」
（以下、A T）検定試験は、合格率25%の超難関資
格で、過去に本学を卒業後、同資格を取得した方々
はいても現役学生の合格は初めての快挙です。見
事、現役合格を果たした遠藤さんに、A Tを目指し
たきっかけや今後の抱負などについてお話を伺いま
した。

A Tを目指すきっかけは—

高校時代からケガや痛みで悩むスポーツ選手をサ
ポートしたいと思っていました。体の構造や仕組み
を知り、ケガをさせない指導方法を学びたいと思
い、仙台大学体育学部体育学科スポーツトレー
ナー・コースを志望しました。高校生の時は、ト
レーナーと言えばマッサージとテーピングの仕事し
か思い浮かびませんでした。今は、スポーツ選手の
傷害から競技復帰までのアスレティックリハビリ
テーションや傷害予防のトレーニングなど幅広い分
野に携われることに魅力を感じています。

合格までの道のりは—

A Tの勉強は、大学1年生の時から始めていまし
ましたが、本格的に始めたのは大学3年生の春頃からで
す。勉強方法は、A T教本の反復暗記を繰り返し行
ない、過去問も何回も繰り返し解きました。大学の
図書館を利用し、一日平均約5時間勉強に励みまし
た。12月中旬に「理論試験」の合格が発表され、実
技試験までの約2ヵ月間は、可能な限り毎日行ないま
した。

実技試験は、本学アスレティックトレーナー部
での現場経験があったので、落ち着いて対応する
ことができました。また、大学2年と3年時に、
仙台大学が提携しているハワイ大学（米国・ハワ
イ州）でのA T研修に参加し、アスレティックト
レーナーがいかに関選手達から信頼され、ケガの予
防やリハビリテーション・精神的な支えなどの広
い分野で不可欠な存在であるかということに深い
感銘を受けました。

今後の抱負は—

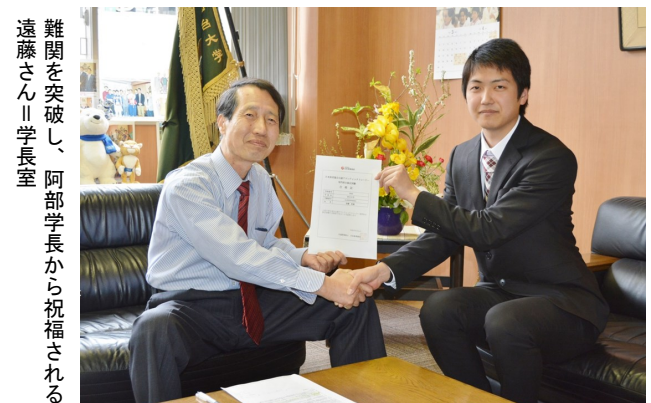
A T資格を取得しましたが、まだまだ学ぶこと
はたくさんあります。常に向上心を持って頑張っ
ていきたいです。CSCS（認定ストレングス&コン
ディショニングスペシャリスト）や鍼灸師・柔道
整復師の資格取得も視野に入れています。選手の
期待と信頼に応え得る知識と技術を身に付け、さ
らには、人間性と感性を磨き、選手と共に成長し
ていきたいと思っています。プロ・アマ問わず、
スポーツ現場での就職先を見つけたいと思いま
す。

仙台大学A Tルームトレーナーの村上教授、小
田講師、山口講師、高橋陽介講師、白幡助教、鈴
木のぞみ助手、大垣助手をはじめ関係各位の皆様
には、人としてもトレーナーとしても成長させて
頂きました。これからも感謝の気持ちを忘れず、
活動していきたいと思っています。

日本体育協会公認アスレティックトレーナーと は？

競技者の健康管理、傷害予防、スポーツ外傷・
障害の救急処置、アスレティックリハビリテー
ション及びトレーニング、コンディショニングの
知識を身につけた、日本体育協会が公認するト
レーナーの資格。

資格試験は、「理論試験」・「実技試験」があ
り、理論に合格すると実技試験が受験できます。
理論試験はマークシートで200問。実技は選手に対
するケガの評価やテーピング、アスレティックリ
ハビリテーションを実際に試験官の前で指導する
という内容です。



難関を突破し、
阿部学長から祝福される
遠藤さんⅡ学長室

フィンランド・台湾からの留学生が「茶道」を通して日本文化を学ぶ



茶筌を使ってお茶を点てる留学生たち＝碧水園（宮城県白石市）

4月22日（水）、古典芸能伝承の館「碧水園」（宮城県白石市）で、フィンランド（2名）・台湾（5名）からの留学生7名が、日本の季節感・感性を理解することやおもてなしの心を学ぶため、日本の代表的な伝統文化である「茶道」を体験しました。留学生全員が初めての茶道体験となりました。

講師は、白石茶道会の矢ノ目浩考会長。留学生たちは、茶道が持つ魅力や奥深さ、床の間の茶花・掛け軸の書道、お茶を点てる際の作法や所作などの説明を受けながら、矢ノ目会長の点てた和菓子とお茶を実際にいただきました。

留学生たちも、茶筌を使って自分で点てたお茶をいただきました。

フィンランド・カヤーニ応用科学大学短期留学生のカミラ・ピュオラクロントさん（写真：右から2人目）は「フィンランドにもグリーンティーはありますが、日本の抹茶のようにほのかな苦みと濃厚な味わいはありません。健康的な感じで美味しかったです」。台湾・台東大学留学生の林旻昊（りんみんはう）さん（写真：左から2人目）は「今まで味わったことのない抹茶と和菓子の味が新鮮でした。床の間の畳の香りに癒され、心が落ち着きました」と感想を述べました。



JICAシニアボランティアを終え、スリランカから帰国—横川元仙台大学教授



写真提供：横川元教授

4月23日（木）、任国スリランカでJICA（国際協力機構）のシニアボランティアとして活動され、9ヵ月間（2014年7月3日～2015年4月2日まで）の任務を終えられた横川和幸元仙台大学教授が、帰国の挨拶のため朴澤泰治理事長・学事顧問を訪れました。

横川元教授に、苦労したことや今後の抱負などについてお話を伺いました。

Q1.活動内容や応募したきっかけは—

スリランカでの活動内容は、学校教育における体育・スポーツを推進し、子ども達の運動不足を解消



横川和幸元仙台大学教授

する運動プログラムの提供、将来の陸上選手を育成するための選抜テストの実施、専門的な基礎技術やトレーニング方法の指導を行ってきました。応募したきっかけは、自分を育ててくれた陸上競技を「他国でも教えたい」という熱い思いからです。

Q2.苦労したことは—

食事で苦労し、味付けが口に合わず、毎日パンばかり食べていました。コミュニケーション言語は、基本的に英語でした。現地は、電気・ガス・ガラス戸もなく、いかに私たち日本人が恵まれた環境にいたかを痛感させられました。

Q3.今後の抱負は—

現地の子ども達とたくさん触れ合うことができ、本当に充実した9ヵ月間でした。チャンスがあれば、再びシニアボランティアに挑戦したいと思っています。また、スリランカの教育事情などを仙台大学や明成高校でお話させて頂きたいと思っています。

J1ベガルタ仙台・OB奥埜博亮選手とOB蜂須賀孝治選手との思い出— トレーナー冥利に尽きる瞬間

左からOB奥埜選手・白幡助教・OB蜂須賀選手
II泉サッカー場（仙台市泉区）



写真も白幡助教

先日、仙台大学男子サッカー部がベガルタ仙台と練習試合を行いました。その試合に帯同した際、本学

おくのひろあき

OBであり現ベガルタ仙台選手の奥埜博亮選手と蜂須賀孝治選手に再会しました。私は昨年度まで第四体育館にあるアスレティックトレーニングルーム（ATルーム）で管理運営を担当しており、彼らも在学中に怪我を治すために利用していました。在学中のあどけなさは無くなり、会うたびにプロサッカー選手らしい風貌になっていきます。

奥埜選手が初めてATルームに来室した時、すでにベガルタ仙台の特別指定選手として練習参加していた事もありプロの「オーラ」があり、私も緊張した事を覚えています。しかし、いざ怪我の評価をしてみると、少しシャイな普通の大学生で、常にプレイでチームを引っ張っていく姿が印象的でした。

蜂須賀選手は、彼が四年生で出場したインカレの数日前に全治2か月の怪我を負ってしまい、大学最後の大会で何とか数分でも出場したいという本人の意思を汲み必死にケアを行ったというエピソードがあります。全力で戦える状況ではない中、彼は途中出場をしたのですが、ピッチに出る直前にベンチにいた私に「白幡さん、ありがとうございます！」と言って勢い良くピッチに駆け出していきました。出場前にはしっかりと感謝の気持ちを言葉で言ってくれたのは蜂須賀選手が初めてで彼の素直さとサッカーに対する強い気持ちが感じられました。アスレティックトレーナーとして働き今年で10年目となりますが、その経験の中でも一、二を争うほど嬉しい出来事でした。

ATルームで関わらせてもらった様々な競技の選手が活躍する姿を見ると本当に感慨深い気持ちになります。現在ベガルタ仙台で大活躍している両選手以外にも、サッカー、柔道、体操競技、バスケットボール、野球、バレーボールなど様々な競技で活躍している卒業生がいます。そのような選手たちをサポートできる職業のアスレティックトレーナーとなり本当に良かったと日々思います。4月から私も助教になりましたが、今後も彼らのような選手たちの活躍のニュースを期待すると同時に本学の選手たちのサポートを継続し、アスレティックトレーナーを目指す学生を指導していければと思っています。最後に、このような経験ができたのも男子サッカー部吉井監督・瀬川コーチ・スタッフ陣をはじめ、AT関連教職員の方々、そして何より努力する選手あつての事だと思っています。この場を借りて、御礼申し上げます。

<寄稿：助教 白幡恭子>

*****両選手から怪我で悩んでいる選手へ向けてメッセージ*****

奥埜博亮選手から～



「怪我したときだからこそできる事や、気付く事があると思います。いろいろと考える時間もあるので、できるだけポジティブに考える事が大事なんじゃないかなと思います。」

蜂須賀孝治選手から～



「地道こそ近道。昨日より今日、今日より明日って少しでもほんの少しでも良くなっていけば、それは最高の事で、全てがそう上手く進むわけじゃない。毎日、症状が変わらなかったり、今日より昨日、昨日より一昨日って戻る時の方が多い。でも決して焦らず、今やらないといけないことを真面目にコツコツとこなしていけば、いつか大きく復帰に近づく日が来る。それが今日なのか明日なのか、それとも一か月後なのかは、全て自分次第。」

一人暮らし高齢者の交流会



3月25日(水)、村田中央公民館にて「一人暮らし高齢者の交流会」(主催：村田町社会福祉協議会)が開催されました。高崎義輝教授が「笑う門には福来る」をテーマに健康講話やアイスブレイキングを行い、その後「手や腕の動きだけではなく表情を使うことも重要」と話され手話を活用し、手話ソング「ふるさと」を参加者全員で行いました。学生の参加もあった為「若い者からパワーをもらった」「こんなに笑ったのは久しぶり」と多くの参加者からの喜びの声も聞かれましたが、ボランティアに行ったスタッフも参加者の笑顔や優しさに出会い、幸せな気持ちになる会であったと1日を振り返りました。

また参加者の中に、私が高校時代にそば作りを教えていただいた渡邊千治さんがおり「我が母校の高校生だった四釜さんに声をかけられた時はうれしかった」とのお言葉をいただいた他、後日「“そば”は食べるものだけではなく人と人を“そば”に引き寄せる」との想いをつづったお手紙と写真を送ってくださいました。私自身、渡邊さんにお会いするのは7年ぶりではあったものの、その変わらぬ笑顔や温かみあふれる手紙に胸が熱くなりました。

配偶者の死をきっかけに、高齢者の自殺の多発や認知症患者も急増している現代社会。今後一人でも多くの高齢者が孤独を感じることなく、自ら新たな楽しみを見出し、主体的に笑顔で幸せな生活を送ることはもちろん、積極的な社会活動への参加が可能な社会づくりのお手伝いをしたいと改めて感じさせられる会となりました。

＜報 告：学生支援室臨時職員 四釜千尋＞

ウェイトリフティング部、未経験からの挑戦—渡部詩乃選手(体育学科1年)



写真提供：壹岐監督

渡部選手の試技＝羽黒体育館

4月8日(土)、羽黒体育館(山形県鶴岡市)で開催された「第1回ウェイトリフティングフェスティバル in SHONAI」で、ウェイトリフティング未経験のわたなべしの渡部詩乃選手(体育学科1年—山形・鶴岡北高校出身)が、スナッチ35キロ・ジャーク50キロ・トータル85kgで女子53kg級の2位となりました。

渡部選手に、ウェイトリフティングを始めたきっかけや今後の抱負などについてお話を聞きました。



渡部詩乃選手

Q1.ウェイトリフティングを始めたきっかけは—

高校時代は、陸上の円盤投げの選手として、東北大会に出場しました。高校の恩師から脚力と瞬発力がウェイト向きと勧められ、大学から新しいことに挑戦することにしました。

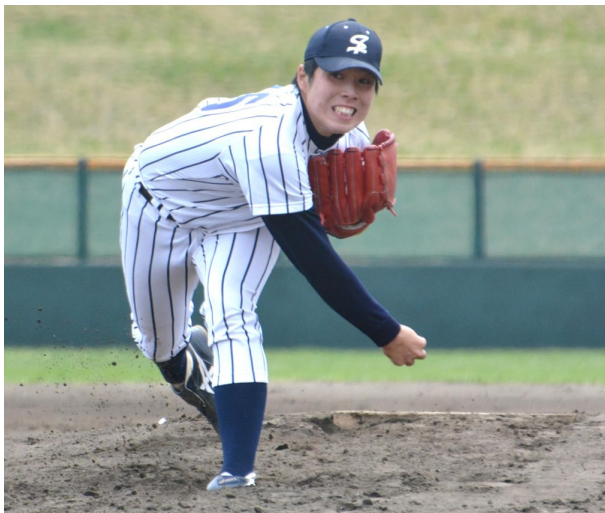
Q2.課題は—

試合会場には独特の緊張感があり、今大会では場の雰囲気吞まれてしまい、本来の自分の持っている力を発揮することができませんでした。自分の持ち味である脚力と瞬発力を意識しながら、練習に取り組んでいきたいと思います。

Q3.今後の抱負は—

記録的には、スナッチ60kg・ジャーク80kg・トータル140kgを目標に頑張っていきたいと思います。初心者言い訳にたくありません。やるからには常に上を目指して頑張ります。

硬式野球部、馬場皐輔投手(体育学科2年)が自己最速152kmを計測



4月25日(土)、東北福祉大学野球場で仙台六大学野球春季リーグ第三節1回戦「仙台大学—東北工業大学」が行なわれました。

ばばこうすけ

先発・馬場皐輔投手【写真】(体育学科2年—仙台育英学園高校出身)が自己最速152kmを計測。6回を投げて東北工業大学打線を4安打7奪三振無失点に抑え、今季初勝利を挙げました。

試合は、仙台大学がリーグ3度目、2位に並ぶ1イニング15点をマーク。7回に2本塁打を含む11安打の猛攻で17-0の7回コールド勝ちを収めました。

引き続き、馬場投手並びに本学硬式野球部への温かい声援をよろしくお願い致します。

仙台大学名誉教授の阿部武彦先生がご逝去されました

平成27年4月9日午後10時6分、仙台大学名誉教授の阿部武彦先生が大腸がんのため71歳の生涯を閉じられました。先生は東北大学文学部国文科をご卒業になり、同大学院博士課程満期退学後、東北大学文学部助手、山形女子短期大学助教授を経て、昭和57年に仙台大学に赴任されました。昭和60年には教授となられ、平成23年に定年退職なさるまで、29年間の長きに亘って本学で教育・研究に尽力されました。この間、図書館長、各種委員会委員長などの要職を務められました。また、ソフトテニス部や応援団・チアリーディング部の部長を務められ、学友会活動の発展に寄与され、優しく温かみのあるお人柄で学生たちからも慕われました。阿部武彦先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。